

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年2月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4697200014
法人名	株式会社 EGUCHI
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	鹿児島県肝属郡東串良町池之原1998番地1 電話(0994-63-5919)
自己評価作成日	平成25年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がいつも笑顔で楽しく暮らして頂けるよう、職員は楽しい雰囲気作りにも努めています。また、自宅で過ごされていたように自由でご本人流の暮らしが維持できるよう、出来る限り利用者様の意思や思いを尊重し希望に添えるような介護を心掛けています。身心機能の維持、予防のためドライブや買い物等、外出の機会を増やし、歩行の機会や季節を感じられる場を提供できるように努めています。また、医療連携体制の訪問看護の健康管理やホームでの健康観察を行い医療との連携を図り異常の早期発見に努めています。ご家族、ご本人が安心、安全、安楽な生活が維持できるように研修や施設勉強会などに参加し、職員個々の啓発に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、風情のある石垣で囲われた民家の立ち並ぶ、静かな住宅地域に立地している。同じ敷地内に、同系列のデイサービスやショートステイなど複数の介護事業所があり、相互の協力体制が取られている。
- ・園芸の盛んな地域で、地区の農業青年部から新鮮な野菜が届けられる。散歩時や、地区の運動会などの行事に参加したり、地域住民とも触れ合いながら生活している。
- ・介護や認知症の相談を受けたり、中学生の職場体験学習や一般ボランティアの受け入れ等、地域との良好な関係が築かれている。
- ・24時間医療連携体制が整っており、家族と連携し看取りにも取り組んでいる。
- ・災害対策として定期的に避難訓練を実施し、地域住民との協力体制ができています。
- ・代表者や管理者は、積極的に外部・内部研修を奨励し、資格取得にむけて協力的で、働きやすい職場である。
- ・職員の中で看護部として組織化し、24時間体制で医療的支援と感染症対策や身体拘束など研修を計画し、実施している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	社長を含め職員全体で作上げた理念は、年1回の見直しを行い毎月行っているミーティングの中で理念に基づくケアの方法を職員全体で話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。	理念は職員全員で話し合い、地域との関連性を重視した独自のもので、毎月のミーティング等で話し合い、具体的ケアについて意思の統一を図っている。年1回振り返り理念の検討をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた際に挨拶を交わしたり、日頃から関係作りを心掛けている。地域の行事には積極的に参加している。また、地域住民の方からの介護等の相談には、誠意をもって支援を行っている	地域の夏祭りや文化祭・運動会等の地域行事に参加している。県下一周駅伝の応援もしている。散歩や買い物等で地域住民と挨拶や会話を行ったり、中学生の職場体験学習やボランティアの受け入れ、認知症の介護相談にも対処するなど、地域の一員として交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	災害時の避難所として利用していただけるよう、運営推進会議で話し合っている。また、救急処置法を職員全員で学び、地域の方々の役に立てるよう努めている。認知症に関するセミナーを検討している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者やサービスの状況だけでなく、施設サービスへの要望、助言の項目を設け、様々な意見を交換している。また、取り上げられた検討項目などについては、その経過を報告し話し合い一つ一つ積み上げていくようにしている</p>	<p>行政や民生委員・家族等の参加があり、会議は定期的開催している。事業所の状況や行事報告・研修報告・外部評価結果報告等を行い、意見交換が行われている。現在取り組んでいる内容についても意見をもらって、日々のサービス向上に反映させている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>経営者、管理者は市町村へ出向き、担当との交流の機会（事業所の考え方、運営や現場の実情を伝える場）を作っている。また、相談などをその都度行うようにしている</p>	<p>町の担当者とは日頃から相談や情報を交換してアドバイスをもらう等、協力関係を築いている。町主催の交流会などにも積極的に参加して連携を図っている。福祉の担当者とも細かに連携を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を設置し、ミーティング等で身体拘束に関する勉強会や事例検討を行っている。また外部・内部の研修会にも積極的に参加をしている。</p>	<p>身体拘束廃止の指針やマニュアルがあり、勉強会や事例検討会・外部研修に参加し、身体拘束ゼロを実践している。身体拘束廃止委員会が設置されている。昼間は玄関の施錠をせずに職員間の連携で見守りに努め、安全で自由な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年回の研修計画の中で、高齢者虐待防止教育を計画している。ミーティング等においては、常に話し合いの機会を設け、虐待の防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新入職員に対しては、外部研修の機会を設け、必要な時に支援を行えるように努めている。現在のところ事例はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を作り、分かりやすく丁寧な説明を心掛ける。説明の際は一つ一つの項目を説明し、分からなかったり理解出来ていない所はないか確認して、詳しく説明していくよう心掛ける		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や不満、苦情については、その都度記録や報告の話し合いを行い、ミーティングや運営推進会等において報告を行う。年1回の家族会を開催し、意見や要望を聞く機会を設けている	利用者からは、日々の生活の中で思いや意見等を聞いている。家族からは、家族会や面会時・状況報告のための電話連絡時に意見や要望を聞くよう心がけている。遠方の家族や面会に来られない家族には、便りを出している。家族との話し合いでセンサーを取り入れた。たりした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会、各委員会を定期的に行い、職員からの意見や提案を聞く機会を多く設けている。また、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう努めている	管理者は、会議やミーティング等で職員の意見や気づきを聞く機会を設け、その反映を図るよう心がけている。提案により椅子の肘掛を装備したり、公用車を効率的に使用したり、就業環境の整備やサービスの質の向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティング、勉強会、各委員会を定期的に行い、介護の質の向上に努めている。また、研修計画を立て、個々の職員に応じた学びの機会を提供出来るようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、職員の経験や役割に応じた研修受講者を決めている。外部研修に参加した職員は、ミーティングで報告、職員間での共有に努めている。また、事業所内で委員会活動を行っており、必要に応じて外部講師を呼ぶなどして、知識・技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に入会しており、研修会や勉強会を通して同業者との交流を持ち、サービスの質の向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、可能な限り事前面談として本人にお会いし、生活状況、身体状況、本人の思い等に向き合い、受け止めることが出来るように努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めてサービスの相談に来られた際は、最初から利用の相談を進めていくのではなく、家族とのコミュニケーションを大切に、家族の困っている事や不安な事をゆっくり聞くように努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、ゆっくりと話を聞いた上で必要なサービスを提供出来るように努めている。必要があれば他の事業所とも連携をとるようにしていく		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度や洗濯等、家事全般にわたって出来る事を一緒に行えるように努めている。またね年配者の知恵や昔の習慣等、分からない事は尋ねるようにし、共に支えあう関係を築いていくように努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報共鳴に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしていた場所や馴染みの人を把握し、関係が途切れる事がないように向いたり、来ていただいたりしている	利用者の生活歴や習慣を大切にし、買い物店との交流やかかりつけ医への受診・馴染みの美容室の利用など、関係継続のための支援を行っている。敷地内のデイサービスとの交流も日常的に行っている。友人・知人の訪問の際には、居室を開放している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆、同じ町内であり、顔見知りの方々が多いため、関係を把握し共通の趣味や話題を提供出来るように配慮している。また、孤立しがちな利用者には職員が間に立ち、関わりが持てるように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて本人と面会を行ったり、家族に状況を聞くなどして、相談や支援に努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の言動や表情を観察し、思いや意向の把握に努めている。さらに毎月各担当者がモニタリングを行い、それぞれの気付きを記録に残し、全職員が共有できるようにしている。また、誕生日会の食事メニューは利用者が選択できるようにしている	日々の生活の中で様子を観察し言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。職員も気づきを記録し、職員間の情報交換を密に行っている。利用者の思いや意向から誕生日会のメニューにノンアルコールのビールを添えたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の際、面談等により本人や家族、関係者からその方独自の生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリング等により、利用者一人ひとりの好む生活スタイルを把握すると共に、行動や小さな動作から本人の全体像を把握するように努めている。また、出来ない事より出来ることに注目し、その方全体の把握に努める		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向や要望を聴取した上で、毎月のカンファレンスでの意見や担当職員のモニタリング、医師の意見やアドバイス等を反映した介護計画を作成している。また、ミーティングでの計画の再確認を行うと共に、その意義や必要性について話し合いを行っている</p>	<p>本人や家族の意向を汲み取った上で、職員でカンファレンスをし、医師の意見やアドバイス等を取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、ミーティングで確認している。状況が変化したときは現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録にて、身体状況や日々の暮らしの様子、本人の言葉やエピソード等を記録しており、いつでも職員が確認できるようにしている。また、朝夕の申し送りや業務開始前の日誌の確認を義務づけている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>平八下家族の状況、ていつ々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の要望に応じて、通院や外出の支援を行うなど柔軟に対応している。利用者が入院された場合は、医療機関の関係者と話し合いながら、早期退院に向けた働きかけを行っている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人の意見や必要性に応じて、民生委員やボランティアとの交流協働を行うように努めている。消防、図書館、町内会との連携もとりながら、交流の機会を継続して持てるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医を受診できるようにしており、受診の際はバイタルチェック票や個別記録を持参して、適切な医療が受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。往診を依頼することもある。受診には看護師が付き添い、情報提供カードを作成し主治医との連携を図っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の体調不良時や急変時等は、常に看護職員と連携を取り、適切な対応が出来るように努めている。日々の体調管理においても、看護職員と相談を行いながら支援に努めている</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は出来る限り病院に見舞いを行い、環境の変化に伴うダメージが少しでも軽減できるように利用者との関係の継続に努めている。また医師や家族とも連絡を取り合い、利用者の早期退院と適切な看護が受けられるように情報交換を行っている</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>できるだけ早い時期から、本人やご家族、かかりつけ医等と話し合いを行い、その時々本人やご家族の意向を確認しながら、対応方針の共有を図っている。また、事業所が対応し得る最大のケアについての説明も行っている</p>	<p>重度化や終末期に伴う指針やマニュアルがあり、家族から同意書ももらっている。看取りについては、状況変化に伴い本人や家族の意向を確認し、主治医と連携して支援している。職員全員がその方針を共有している。勉強会や研修などで職員の意識統一を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時対応マニュアルにてミーティング時に勉強会を行っている。また、職員個々においてもマニュアルを繰り返し見直し、学びを行うように努めている</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力のもと、避難訓練や救命訓練を行っている。運営推進会議において近隣住民の協力を呼びかけたり、逆に事業所を災害時の避難場所とすることを提案するなど、地域との協力関係を築けるように努めている</p>	<p>年2回消防署の立会いのもと、避難訓練や救命訓練を実施している。同系列の各事業所職員や地域住民との協力体制もできている。消防設備の定期点検や通報システム・スプリンクラーも設置されている。運営推進会議で災害時について話し合っている。非常時の食材や水の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉遣いや声掛けに際して、利用者の尊厳重視に努め、職員の意識向上や具体的な対応方法については、ミーティング等において勉強会を行っている。また、委員会においても定期的に話し合いを行い、一人ひとりの人格の尊重の重要性を学んでいる</p>	<p>日々のケアの中で、人格やプライバシーを損ねず、人としての尊厳を保てる言葉かけや対応に留意している。勉強会や研修を通して職員の意識の統一を図っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日課を優先するのではなく、本人の希望を聞き取り、優先して行えるように努めている。また、支援の中で自己決定できるような場をたくさん作れるよう声掛けを行っている</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調や状況に配慮し、本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行うように努めている</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>身だしなみやおしゃれについては、できる限り本人の意向で決めていただくように支援している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の状況に応じて、買い物、調理、盛り付け、片付け等と一緒にすることが出来るよう努めている。食事の時間は、利用者と職員と一緒に食事や会話をしながら楽しい雰囲気を作るよう心掛けている。また、定期的な外食も計画し、利用者に楽しんでいただけるよう努めている	自家菜園で収穫した野菜を食材に取り入れたり、医師や栄養士の助言をもらいながら、嗜好に配慮した献立を工夫している。利用者と一緒に、買い物や準備・後片づけを行っている。月1回の外食や誕生会・行事食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。口腔ケアも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を一日を通して記録し、状況の把握に努め、必要に応じて栄養補助食品やゼリーの摂取を支援している。また、栄養士にアドバイスをもらいながら献立を作成し、食事が偏らないように配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、利用者に応じて見守りや介助を行っている。義歯の利用者には毎晩義歯洗浄剤の使用を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事後のトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。また、それぞれの利用者に応じた排泄チェック表を利用し、心身の状態と排泄の関連性も考慮している	個々の排泄パターンを把握し、職員のこまめな声かけや誘導によるトイレでの排泄を大切にしている。便通に良い食材を取り入れ、食生活を工夫し、自然排便と立位援助に取り組んでいる。夜間はポータブルトイレを使用している利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後やおやつ時に便通に良い食材を取り入れるようにしている。また、かかりつけ医に相談を行い、それぞれの利用者の状態に応じた服薬の介助を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には週3回の入浴介助を行っているが、希望時や清潔保持の必要がある場合は、いつでもシャワー浴が行えるようにしている。入浴状況は記録に残し、定期的な入浴が行えるように管理している	週3回の入浴であるが、一人ひとりの希望に添った入浴が楽しめるように対応している。身体の状態により機械浴用浴槽で安全に入浴を楽しめるように支援している。入浴をいやがる利用者には、職員間で連携し、入浴利用が進むように状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を配慮して、ゆっくり休息が取れるように配慮を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書のファイルにて、全職員が服薬の内容を把握できるようにしている。服薬時は誤薬がないように、個別のケースを用意し薬の管理を行っている。また、配薬後は服用までの確認を行い、チェック表にて記録を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事の準備や片付け、季節の行事等、利用者の知恵や経験を発揮できる場面を作るように努めている。また、外食やドライブ、誕生会等の楽しみごとや気分転換の支援も多く行えるように計画している</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>本人の体調や希望に応じて、日常的に散歩や買い物、ドライブ等の機会を多く作り、心身の活性に繋がるように努めている</p>	<p>日常的には敷地内の散歩や買い物・ドライブに出かけている。年間計画を立てて、家族を誘っての花見やみかん狩り・温泉・外食にも出かけている。車椅子専用の車も準備している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分の財布からお金を出すことで、社会性の維持に繋げており、一人ひとりの希望や力に応じて支援を行っている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>状況に応じて、本人の希望や必要がある場合は、いつでも電話ができるように声掛けや援助を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所には仕切りが無く、調理の音や匂いを感じながら、家庭的な雰囲気ですごすことができるように配慮されている。玄関前には、季節感を味わえるように四季折々の花を植えるように心掛けている	共用空間は、天窓から明かりを取り入れ、採光や換気に配慮され、掃除が行き届き清潔である。広く開放的で、利用者もソファやいすでゆったり過ごしている。玄関前には花が植えられている。壁には写真や手作りの作品が飾られ、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室等を設置し、その時々のお気持ちに応じて好きな場所で過ごせるように配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みや馴染みの物をご家族に用意していただいたり、生活スタイルや本人の要望に応じて必要なものを職員が用意する等、本人が居心地よく過ごせるように努めている	ベッドと洗面台は備え付けとなっている。冷蔵庫やテレビ・タンス・写真など、使い慣れた物や馴染みの品物・家族の思いが伝わるものが持ち込まれている。各居室には、加湿器が置いてあり、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、玄関、ホールやトイレ、浴室等の住環境においては、利用者が安全で自立した生活を送れるように環境づくりを行っている。また、利用者の状態に応じた環境整備の見直しを行っている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない